

はり実技における経穴学習の動機づけ

奈良県立盲学校 教諭 北村 穰

1 はじめに

本校の専攻科理療科のカリキュラムでは、経絡経穴概論を1年次に学習することとなっている。生徒は経穴を学習するにつれて、「経穴はとにかく暗記科目」という認識になっていくようである。馴染みのない難しい漢字や学習途中の解剖学的用語が並び生徒からは「とっつきにくい」という声が聞かれる。また、経穴の有効性についても、先人の経験の積み重ねであり神秘的であると生徒は感じつつも、東洋医学概論は未学習であり、その根拠に釈然としないといった様子もうかがえる。

社会的には、あはき師の資質向上を目指し国家試験の見直しが行われ、令和2年度第29回あんま・はり・きゅう国家試験より問題数が増加した。とりわけ経穴の問題数が以前より増え、さらに臨床的な西洋医学と東洋医学の知識が求められている。しかし、基本的な知識の定着がなければ国家試験を突破するのは難しく、1年次で学習する内容の積み重ねが重要というのが、私の実感である。

このような現状を踏まえて、専攻科理療科2年次におけるはり実技の授業において、経穴を継続的に学習しようとする動機づけを目的とした取組について報告する。

2 研究目的

- (1) 四肢末端にある経穴の主治症を示すことで、生徒が経穴に興味を持ち、学習意欲を高める。
- (2) 所属経脈、部位や取穴法、要穴、解剖学に関することを発問し、知識の確認を行う。
- (3) 四肢以外の経穴についても主体的に学ぼうとする動機づけとする。

3 方法

- (1) 対象：専攻科理療科2年 4名（男2、女2、弱視4）
- (2) 期間：令和4年6月～7月
- (3) 授業：はり実技
- (4) 部位：上肢・下肢の主要経穴
- (5) 手立て

ア 教材資料（別紙）を生徒に配布し、被術者の本時の愁訴に合わせて資料より術者は選穴し刺鍼する。

選穴した経穴の所属経脈、部位や取穴法、要穴、筋肉や神経など解剖学的なことを教員が発問し知識の確認を行う。

答えられなかった発問については生徒に復習を指導し、教員は次回の授業中において確認を行う。

イ 「腰痛」と「頸肩部のこり」については空白にしておき、2人1組で四肢末端のこれらの主治穴について調べさせる。

調べた主治穴について発表し合い、知識を共有する。

4 評価方法

- (1) 授業中の態度や発問への回答
- (2) 生徒への事後アンケート

【参考まで】

- (3) 1学期末の実技到達度観察会による評価
- (4) 9月実力テスト（経穴）による評価

5 考察

(1) 授業中の様子

生徒Bは本校の保健医療科を卒業しており、主要な経穴の所属や要穴について他の3人よりは教員の発問に対し答えることができていた。しかし、部位・取り方や解剖学的な発問については曖昧なところが多かった。他の3人に関しては、いずれの発問にも曖昧なところが多く、基本的な知識が定着していない様子であった。時には教員3人も入り、毎時間、組合せが変わるので、多種多様の愁訴に対して教材資料より選穴をしていた。

「頸肩部のこり」「腰痛」の主治穴については、主体的に学習する機会とした。インターネットによる検索で終わるかと思っていたが、保健医療科で使用していた経穴・東洋医学の教科書を調べたり市販の参考書を購入したりして、こちらが思っていた以上に生徒は意欲的に調べ学習に取り組んでいた。

後半になってくると、よく出てくる経穴の所属経脈、部位・取穴について少しずつ知識の定着がみられるようになった。ただ、4人とも最後まで解剖学用語を苦手とし、確実に覚えるには至らなかった。

全体を通して、生徒達は授業内容にあきることなく、四肢末端の経穴を用いて愁訴に対して刺鍼を行い、時には愁訴の改善があると経穴の効果を実感できたようである。

(2) 事後アンケート

ア アンケート項目

- 1：まったく思わない～5：とても思うの5段階で数字を書いてください。
- 1 経絡経穴について、以前よりも興味を持つことができましたか。
 - 2 経絡経穴について、これからの臨床に活かせると思いますか。
 - 3 経絡経穴について、もっと深く学びたいと思いますか。
 - 4 経絡経穴について、自宅学習の時間が増えたと思いますか。
 - 5 経絡経穴について、以前よりも知識が身についたと思いますか。
 - 6 今回の実技について何かあれば自由にお書きください。

イ アンケート結果

	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D
質問1 興味	5	4	4	4

質問2 臨床活用	4	4	4	4
質問3 深い学び	5	3	4	4
質問4 自宅学習	3	4	4	4
質問5 知識の定着	4	4	4	3
質問6 自由記述	どんどん実技を やっていき たい。		自分自身で理解 を深めたらいい のですが、授業 で具体的なつぼ を繰り返し（こ の1時間は肩こ りのつぼとか） したいです。	とても勉強にな った。

アンケートの結果より、生徒全員が経穴への興味が高まり、また愁訴に対する四肢末端の治療穴という取り組みが今後の臨床に活用できるとの回答を得た。以下、各生徒について考察する。

生徒Aは、経穴への興味が増し、より深く学びたいとの意識が高まった。しかし一方では自宅学習の時間は以前と変わらないとのことなので、どのように学習すればよいのかまだ模索していると思われる。自由記述より、実技への積極性がうかがえる。

生徒Bは、経穴について興味はあるが、とりあえず国家試験合格相当の知識を身につけることを目標としていると思われる。保健医療科を卒業し、あんま国家試験に合格していることから、まずは広く浅くといった学習スタンスではないかと思われる。

生徒Cは、本人が腰痛や膝痛を抱えているため、自由記述にあるように愁訴に対する四肢末端以外の局所の治療穴にも興味があるようである。調べ学習においても、4人の中で最も主治穴を発表してくれていた。

生徒Dは、知識には自信がもてないようである。授業中の発問に対して笑ってその場をやり過ごすことがあった。「勉強になった」との自由記述より、長期記憶には自信が持てないが、経穴や実技への興味関心は高いと思われる。

【参考まで】

(3) 1 学期末実技到達度観察会

生徒4人を2人ずつ2班にわけて実技観察を行った。課題は上肢・下肢の主要15穴から観察者(教員)が1人につき4~5つ選び所属経脈や部位を発問しながら取穴・刺鍼するというものである。当日は1名欠席のため3名実施した。事前に主要15穴を伝えていたので、生徒達は復習をして臨んだと思われる。3人とも経穴の知識や取穴に大きな問題は見られず、A~Dの4段階評価でAないしBであった。

(4) 9月実力テスト

4月実力テスト経穴20問の正解数は以下の通り。

A : 5 B : 12 C : 2 D : 3

9月実力テスト経穴12問の正解数は以下の通り。

A : 10 B : 7 C : 2 D : 5

ちなみに9月実力テスト経穴12問中8問は4月実力テストと同じ問題を出題した。

その目的は生徒が自主的に問題の見直しをおこない知識の定着をはかっているかを確認するためである。結果は以下の通りである。

A : 8 B : 4 C : 1 D : 5

生徒Aは共通問題をすべて正解している。9月実力テストの前に4月実力テストの見直しをしたとのことである。

生徒Bは4月、9月実力テストともに6割の正答率である。ある程度、経穴の知識は定着している。しかし、共通問題の正答率は5割のため見直しは行っていないと思われる。

生徒Cは成績の伸びはみられなかった。見直しをしている様子もなく、特に経穴の苦手意識が強いと思われる。

生徒Dは共通問題8問中5問を正解しているが、他の4問は不正解であった。よって、見直しを行ったと思われる。今後も、一度切りではなく見直しする習慣を身に着け、着実な知識の定着を期待したい。

6 おわりに

今回の授業実践は、愁訴に対する選穴と刺鍼において四肢末端穴を用いて経穴の学習への動機づけを行った。総じて経穴に対する苦手意識をもつ生徒達であるが、予想以上にはり実技の授業では前向きに取り組んでいる様子がみられ、担当者としては少し胸をなで下ろした。局所だけでなく四肢末端の経穴で治療効果があることを実感する生徒もおり、経穴の不思議さを実感できたのではないかと思う。

経穴への興味が以前よりも増したことは、調べ学習においてこちらの想定以上に各自が意欲的に取り組む様子からも感じることができた。

今回の取組を通じて、学習した知識を実践に落とし込んでいくことの重要性を改めて見直す機会となった。これからも、新たな手立てを考えながら経穴の学習意欲を高められるように授業を工夫していきたい。

【資料】

四肢末端にある疾患別経穴

1 眼

眼疾患：合谷、光明、足竅陰、大敦、太衝、曲泉

充血：少海、至陰

2 耳

耳の疾患：小海、復溜、三陽絡、足竅陰

耳鳴り：合谷、少海、四瀆

中耳炎：太溪

聴力障害：会宗

3 鼻

鼻づまり：太淵、太溪

鼻出血：二間、委中、懸鐘

4 のど・口・歯

咽頭痛：尺沢、列欠、少商、曲池

歯痛：二間、三間、合谷、温溜、衝陽

口内炎：温溜

扁桃炎：靈道、湧泉、然谷、太溪、関衝

5 皮膚

皮膚病：曲池

化膿性疾患：養老

6 筋肉

筋痛：陽陵泉、陽交

こむら返り：金門

※1 腰痛：

※2 頸肩部のこり：

五十肩：養老

頸やうなじの強ばり：外丘、丘墟

7 骨

足関節ねんざ：商丘、崑崙、申脈、太溪、陽輔、丘墟

手の関節痛：太淵、少府、内関、大陵、陽池、外関

膝関節痛：委陽、陰谷、陽陵泉、膝関、曲泉

8 神経

橈骨神経痛や麻痺：陽溪

尺骨神経痛や麻痺：靈道、通里、腕骨、支正

正中神経痛や麻痺：大陵、中衝

坐骨神経痛：委中、飛揚、崑崙

すべての麻痺：手三里

頸・肩・上肢の神経痛：小海

肋間神経痛：外丘、行間、太衝

9 呼吸器

呼吸器疾患：太淵

咳嗽：曲沢、丘墟

呼吸困難：神門

喘息：神門

10 循環器

高血圧：合谷、委中、束骨、湧泉、復溜、懸鐘

脳貧血：手三里

狭心症：陰郄、神門、少衝、間使

心臓病：郄門、大陵、太溪

11 消化器

胃疾患：足三里、衝陽、大都、太白、公孫、陰陵泉、大陵

大腸疾患：上巨虚

小腸疾患：下巨虚

胃腸虚弱：条口

腹部膨満感：漏谷

肝臓疾患：太衝

12 泌尿器

泌尿器疾患：中封、曲泉

肛門疾患：孔最

痔疾患：懸鐘

膀胱炎：然谷

腎臓疾患：太溪

13 生殖器

生殖器疾患：三陰交、復溜、陰谷、大敦、行間、太衝、中封、中都、曲泉

月経過多：陰白

子宮出血：然谷

婦人病：商丘、陰陵泉、照海、水泉、足臨泣、蠡溝

逆子：至陰

14 精神

精神病：神門、飛揚、間使、大陵、天井

ヒステリー：豊隆、靈道

ノイローゼ：厲兌

15 その他

頭痛：豊隆、解溪、公孫、少沢、後溪、腕骨、委中、金門、三陽絡

片頭痛：四瀆

手足厥冷：内庭、大都

糖尿病：地機、陽池、行間

めまい：少海、飛揚、湧泉、俠溪、曲泉

のぼせ：前谷、行間

感冒：後溪

解毒：築賓

全身疲労：勞宮

発熱：関衝

下肢の冷感：中封

【参考図書】

経絡経穴概論 改訂版 大阪市立盲学校理療科研究部 著